

令和8年度「日本史探究」シラバス

科目名		必修・選択	単位数	類型
日本史探究		選択	5	普通科文型・GC科
教科書	教科書：『詳説日本史』（山川出版社）			
副教材等	副教材：『図説日本史通覧』（帝国書院）			

1 学習目標

主として近世～現代の日本の歴史について、現代社会の諸課題や諸言説との関連から歴史的事象への理解を深める。また、歴史的事象を、当時の文脈に立ちながら、背景や条件、「ある人物」の意図等から考察できる歴史的思考力を養う。特に、過去の生活や文化に興味を持ちつつ、現代的諸現象・諸言説について、我が国の歴史を射程にその「来歴」を踏まえ、同時に「類推」材料と位置づけながら、意見を形成することができる、民主主義社会に生きる主権者としての資質を養う。

2 学習概要

歴史を総合的かつ立体的に見るためには、基礎として個別的な歴史的知識を知っていることは必要なことであり、また重要なことである。加えて、個別的な歴史的知識を理解した上で、歴史的諸事象の原因（＝なぜ？）、当該地域や時代・現代社会に及ぼした結果・影響（＝どのように？）を考察することで、歴史的思考力が養われていく。履修に当たっては、「一問一答」的な知識に終始すること無く、当該時代の背景や他の歴史的事象との関連にまで目を向けなければならない。

また、現在や今後の生活を通して、社会的な諸言説や諸現象、諸場面において「歴史＝時間軸」という視点から「なぜ？」を問うてほしい。何よりも「現地を見る」ことで、歴史科目で学んだ「現在という視点のみではみえない歴史」を実感してほしい。我々がある同じ「事象」を見る際、歴史を知らずにその「事象」を見る人と、歴史という文脈・世界を感じつつその「事象」を見る人では、当然「見える世界」が異なってくる。授業、ひいては日常生活を通して「知る」ことの面白さを実感してほしい。現代社会に「見えないものを見る」力を養うことが「地理歴史科」の意義である。

3 学習方法

授業は講義形式を中心とするが、資料等（図・表・歴史資料等）を活用し、必要に応じてペアワークを通して、自ら考察し探究する場面を設ける。特に、授業では、積極的に既習事項との繋がりや関係性を「振り返り」「広げる」時間を設ける。この活動を通して、自らの「学び方」を身につけ、様々な場面で、自分自身で「振り返り」「広げる」ことができる主権者になってほしい。とりわけ、授業内容に関して積極的にメモをとる姿勢を期待している。

4 評価について

（1）評価方法

「知識・技能（①）」、「思考・判断・表現（②）」、「主体的に学習に取り組む態度（③）」の3観点で評価を行います。

具体的に評価方法は、以下の通りです。

- ①：定期考査・ワークシート
- ②：定期考査・ワークシート・発問評価
- ③：授業態度・提出課題

上記の項目を勘案し、単元及び学期、学年の評価とします。

（2）評価規準

	知識・技能（①）	思考・判断・表現（②）	主体的に学習に取り組む態度（③）
評価規準	日本史に係る諸事象について、歴史的な文脈を踏まえ、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解すると共に、諸資料から日本史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけることができる。	日本史に係る諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。また、歴史上及び現代の諸課題を把握し、解決を視野に入れ構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	日本史に係る歴史的・現代的諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

5 学習計画

学期	単元名	学習のねらい（内容のまとめごと）
一学期	第7章 武家社会の成長	○ 南北朝の動乱から室町幕府の成立過程、東アジアとの交流と中世日本社会への影響について理解する。（1節） ○ 自治に基づく惣村成立と一揆の動向と諸産業の発達について、室町時代を幅広く理解する。（2節） ○ 南北朝文化、北山文化、東山文化の特徴を、政治的背景や下剋上の風潮に着目し考察する。（3節） ○ 応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や都市を地理的条件と関連付け考察する。（4節） ○ 大航海時代という世界史的背景を踏まえ、織豊政権の特色と意義、後世への影響を理解する。（1節） ○ 新興大名や豪商の精神を反映した桃山文化について、時代的背景を踏まえて考察する。（2節） ○ 江戸幕府の幕藩体制成立と武断政治の特徴、「四つの口」論に基づく「鎖国」政策の意義を理解する。（1節） ○ 幕藩体制確立期の経済・社会を村落支配の観点から、幕藩体制における位置づけに着目し考察する。（2節） ○ 17世紀後半から18世紀前半までの幕府政治を「文治政治」への転換をキーワードとして考察する。（3節） ……………〈1学期中間考査〉……………
	第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕府体制の動揺	○ 幕府政治の安定を背景に発展した諸産業や商工業について、相互の関連を踏まえて考察する。（4節） ○ 幕府政治の安定を背景に元禄文化が形成されたことを、諸学問及び儒学の発展を軸に理解する。（5節） ○ 農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義と影響を考察する。（1節） ○ 宝暦・天明期に確立した洋学や国学、文学・美術について、幕藩体制の動揺と関連付けて考察する。（2節） ○ 欧米・ロシアのアジア進出による国際情勢の変化やその対処に伴う幕府政治の衰退過程を理解する。（3節） ○ 化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の展開に着目し、考察する。（4節） ……………〈1学期期末考査〉……………
二学期	第11章 近世から近代へ	○ 日本の「開国」を国際環境の変化に着目し、社会・経済面での変化と関連させ、考察する。（1節） ○ 幕末における「佐幕開国」／「公武合体」と「尊皇攘夷」の対立と幕府の滅亡過程について理解する。（2節） ○ 「中央集権・天皇制国家」を軸に、富国強兵／殖産興業政策・文明開化・対外政策を理解する。（1節） ○ 自由民権運動の過程と立憲国家の成立過程、大日本帝国憲法に基づく近代国家形成過程を理解する。（2節） ○ 不平等条約改正過程と、「利益線・主権線」を鍵に朝鮮問題から日清・日露戦争の過程を理解する。（1節） ○ 第一次世界大戦による民主主義の風潮と大正デモクラシーの関連及び国内政治の展開を理解する。（2節） ……………〈2学期中間考査〉……………
	第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開 第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦	○ ワシントン体制による国際協調体制と普通選挙法成立による「憲政の常道」の政治過程を理解する。（3節） ○ 日清・日露戦争を背景に資本主義国家の基礎が成立した功罪について、考察する。（1節） ○ 伝統的な文化の上に欧米文化を摂取する近代文化の特色を、国内政治の動向と関連させ考察する。（2節） ○ 大衆社会成立基盤に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえ、大衆文化の特色について考察する。（3節） ○ 戦後恐慌、震災恐慌、金融恐慌、昭和恐慌という国内経済の動揺について、原因と影響を考察する。（1節） ○ 五・一五／二・二六事件に象徴される「憲政の常道」終焉と軍部の台頭と対外政策の展開を理解する。（2節） ○ 日中戦争から太平洋戦争の過程を理解し、空前の惨禍の実態に着目し、平和の重要性を認識する。（3節） ……………〈2学期期末考査〉……………
三学期	第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	○ GHQの「民主化・非軍事化」政策を鍵として、その経過と日本国憲法の成立過程と意義を考察する。（1節） ○ 世界と東アジアの冷戦を背景に、連合国による占領が終結し、日本が独立した意義を考察する。（2節） ○ 日本の国内政治について、保守・革新勢力による55年体制の成立とその後の過程について理解する。（1節） ○ 高度経済成長を中心とする日本経済の動向を、対外関係とその影響に着目して、考察する。（2節） ○ ドル＝ショックや2度の石油危機がもたらした経済成長の終焉とその影響について、考察する。（1節） ○ 冷戦体制の終結とそれに関わる国内状況について、政治・外交・生活文化面を踏まえ、幅広く捉える。（2節） ○ 「日本史探究」で身につけた視点を活かし、現代的諸事象・諸現象について分析・探究・表現する。